

沖縄小児保健賞

沖縄小児保健賞の受賞にあたって

NPO法人療育ファミリーサポート ほほえみ
理事長 福 峯 静 香

はじめに

このたびは、沖縄小児保健賞という大変名誉ある賞をいただくことができ、心から感謝しております。

「小児保健」とは、小児の健康の保持と増進を図る保健領域のことであると捉えています。ある意味当然のことかもしれませんが、私は、我が子を出産するまで「小児保健」というものとは、全く縁のない生活をしていました。

第1子である長女を授かり母となり、初めて母子保健と出会い、次に重度の障がいをもつ長男を出産してからは、小児医療なくしては、生きてすらいけない我が子の命の儚さを痛感し、更に様々な社会保険や社会福祉という補償なくしては、私達家族の生活もたちまち立ちいなくなるような状況を経験しました。

それらの社会保障が、小児保健という領域に存在するものであったのだと、今更ながらに考えさせられた受賞でありました。

社会保障との出会い

第1子を妊娠した際、妊婦としての私の身体をいたわる声かけや態度を示す、医療者や役所の方など、いわゆる「他人」の親切や優しさに触れ、子どもをもつということが、こんなにも社会の一員として認められ、歓迎されることであることと、それに伴う責任について考えさせられました。

第2子である長男が、重度の障がいをもち生まれてきた際には、多くの薬剤や医療機器、そして多くの人々の手をかしていただかなければ、一日として生きてはいけない現状の中で、医療というものの有難さを痛感し、またそこに携わる方々の想いに何度

も救われました。

多くの医療を必要とする生活が長引くと、今度は私達家族の生活自体を支援して頂く必要が生じてきました。

特別児童扶養手当や高額療養給付金など本当に様々な社会保険や社会福祉のシステム(制度)によって、私達家族の生活が根底から支えられていました。

そのような生活を送る中で芽生えた感謝の気持ち、重度の障がいをもつ我が子の他界後、自分たちが受けた恩恵を社会に返して行かなくてはという想いとなり、NPO法人を立ち上げました。

ほほえみとしての活動

ほほえみの活動は、重度の障がいをもつお子さんとその家族を支援することですが、その活動の中心は「つなげる」ことです。

私が恩恵を受けた様々な社会保障という制度へつなげることを始め、サービスを提供する事業所や人へつなげること、更にここ数年最も力を入れていることは、情報をつなげる(提供する)ことです。

平成23年度に沖縄県が行った「重度障がい児者生活実態調査」の結果を受けて、今必要とされる支援とは何かを私なりに考えた際、どんなに制度やサービスが準備されていても、そこにつながらなくては、意味がないということを感じ、また情報社会といわれ、インターネットが普及した今の世の中であっても、本当に今自分が必要とする情報を見つけ出すことは意外と困難であることや、人との関係においても、横のつながりは作れても、時間軸における縦のつながりを作ることは、なかなか難しいということも感じました。

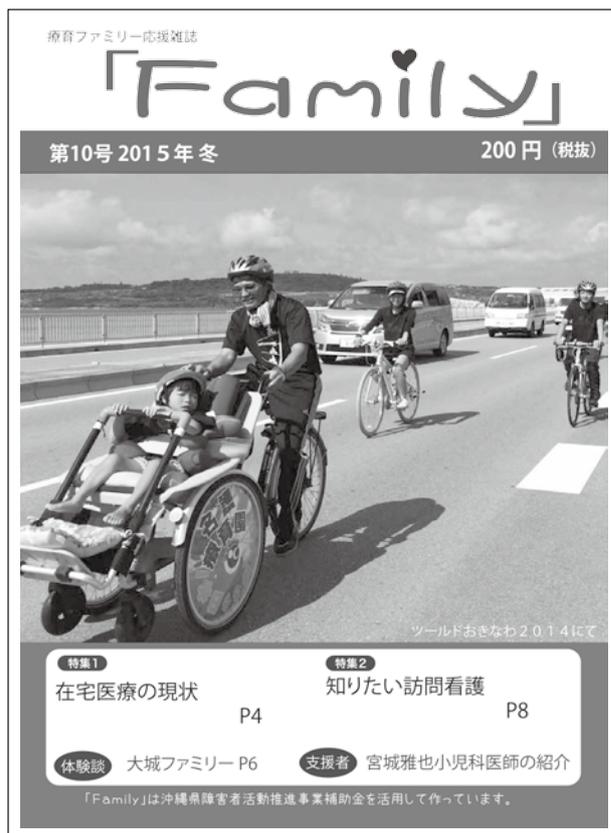
そこで、「療育ファミリー応援雑誌Family」という雑誌を刊行しました。「Family」を定期発行することで、少しでも必要な情報を必要な人に届けたいと思っています。

おわりに

私の力は微力で、時々そのことに気持ちが折れそうになることはありますが、そのように気持ちが折れそうになる時ほど、自分がしてもらった「他人」からの親切や施しが思い出され、奮起させられます。

子を授かるまでは、社会とは冷たいものであると感じていましたが、今は社会とは本当に温かいものであると感じています。

子どもは社会の宝であるといいますが、小児保健とは、子を中心に社会が支えあうそのシステムを作り出す中心軸であると考えます。そのような働きのお役に少しでもたてるよう、これからも精進していきたいと思っています。有難うございました。



療育ファミリー応援雑誌「Family」



息子と一緒に



クリスマス会